

当院で腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術を受けられた患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものであり、ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありません。また、研究のために、新たな検査などは行いません。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないのご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。お申し出による不利益は一切ありません。

ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2007年1月1日～2020年12月31日の間に腹部大動脈瘤で硬膜外麻酔を併用して手術を受けられた方

【研究課題名】腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術施行患者における硬膜外力カテーテル留置と硬膜外血種の発生について

【研究責任者】国立循環器病研究センター 輸血管理部 部長 吉谷 健司

【研究の目的】腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術施行の際に、硬膜外麻酔を併用することがありますが、硬膜外麻酔カテーテル留置の重篤な合併症の一つに硬膜外血腫があります。本研究では、当院における硬膜外血腫の発生状況を調べ、抗凝固薬、抗血小板薬との関連性を明らかにすることを目的としています。本研究の成果は症例的により安全な硬膜外麻酔の実施法の確立に貢献することが期待されます。

【利用する診療情報】

年齢、体重、身長、性別、術前合併症、抗凝固・抗血小板薬の有無、抗凝固・抗血小板薬の休薬期間、術前の候凝固薬の使用の有無、術前の硬膜外力カテーテル留置の時期、手術開始からヘパリン投与までの時間、ヘパリン投与量、術中ACT（活性凝固時間）、術中出血量、術中輸液量、術中水分輸液・排出バランス、術後硬膜外力カテーテル抜去時期、術後抗凝固療法の有無、合併症の有無（術後神経症状、術後硬膜外血腫、カテーテル挿入部の感染、低髄液性頭痛、皮下血腫、カテーテル感染）

【研究期間】研究許可日より2022年12月31日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

この研究で得られた情報を将来、二次利用する可能性や研究計画書を変更する場合があります。その場合は、研究倫理審査委員会での審議を経て、研究統括管理責任者の許可を受けて実施されます。二次利用する際に文書を公開する場合は、国立循環器病研究センター 公式サイト (<http://www.ncvc.go.jp>) の「実施中の臨床研究」のページに掲載いたします。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 麻酔科 担当医師 坂本 悠巨
電話 06-6170-1070(代表)